平成14年（2002年）9月20日

廃棄物学会ニュース　No.70
The Japan Society of Waste Management Experts　廃棄物学会

支部発足に向けて準備進む

廃棄物学会では、平成14年10月1日から、学会活動を一層活発化し、会員増強を図ることにより学会の基盤を強化することを目的として、支部を設置できることになりました。

地区における活動は、今日まで北海道、東海・北陸、関西、中国･四国及び九州の5地区で、自主的に行なわれていますが、これらの活動をより活発に展開し、かつ地域に根ざした効果的活動として進められるよう、支部として学会の正式な組織とするものです。（支部の名称及び範囲は廃棄物学会誌Vol.13, No.4 N27ページ　廃棄物学会支部設置規定参照）

また、支部発足と合わせて、先の総会で承認された「登録団体会員」制度もスタートいたします（廃棄物学会誌Vol.13, No.4総会報告参照）。この新会員制度は、かねてから要望があった市民会員を会員として制度化したもので、廃棄物問題を取り上げ、市民活動を実践している市民団体に所属する市民を、廃棄物学会の会員として迎えるものです。このような市民活動は、殆んどが地域において行われており、廃棄物学会の支部活動と密接な関連があるところから、支部の発足と時期を同じくしてスタートするものです。(具体的なことは、廃棄物学会事務局にお問い合わせください。)

支部制度と登録団体会員制度に関しては発足後様々な問題が生じてくることが考えられますが、会員各位のご意見等をお聞きしながら、より良い制度に改善して参ります。

会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

◎各地区の支部設立に向けた準備状況

地区名	状　況
北　海　道	現在支部制度に準じて活動を行っている。
東海・北陸	9月下旬に地区幹事会を開催し組織等内規原案を協議する。今秋の発足を図る。
関　西	設立総会　平成14年11月29日(金)　11:30～13:00　国立京都国際会館 支部設立記念講演　京都大学教授　武田　信生　氏 記念シンポジウム「廃棄物と土壌汚染」 平成14年11月30日(土)　13:00～15:30　国立京都国際会館
中国・四国	8月30日に地区幹事会を開催。組織等内規原案を協議。今秋の発足を図る。
九　州	設立総会、記念講演、懇親会 平成14年10月5日(土)　13:30～19：30　福岡ガーデンパレス 支部設立記念講演　廃棄物学会会長・京都大学教授　高月　紘　氏

◎支部及び登録団体会員に関するお問い合わせ先：

廃棄物学会事務局　TEL　０３－３７６９－５０９９
FAX　０３－３７６９－１４９２

第７期委員長就任挨拶

総務委員長
藤本　忠生
(株式会社クボタ)

第６期に引き続いて総務委員長を仰せつかりました。これからの２年間、会員の皆様方のご協力を得て、その職責を果たしたいと思います。

総務委員会の所掌は、学会の管理運営、学会ニュースの発行、役員選挙、表彰などと規定されております。幸いにして、今期、総務委員会の委員の強化も図られましたので、これらの事項に関して、創立後 12 年間の先輩方のご努力を省みつつ、今後の 10 年に向けての発展はいかにあるべきかを考えながらテーマを立案、検討し、理事会に上程して行きたいと考えます。

具体的には、

①会長方針（学会ニュースNo. 69）の具体的施策の立案
（会員増強・国際協力活動の推進・社会に向けての発信・法人化・若い会員の育成）

②前期から進められている会員増強対策委員会の検討結果の具体化
（廃棄物学会対象範囲、会員メリット、会員ニーズ、新たな収入源、支部組織、外部発信及び会員勧誘計画）

③理事会からの指示事項の具体化

などであります。

会員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

編集委員長
山本　和夫
(東京大学)

この度、廃棄物学会第７期編集委員長を拝命しました。編集の仕事は日々の積み重ねであり、遅滞なく業務を進めていくことが肝心です。その点、京都でお世話いただいています編集体制（幹事長中村一夫理事）は、そのまま継続しておりますので、会員の方にはご安心していただけるかと存じます。小生も、15 年以上前になりますが、Water Research 誌日本編集委員会幹事として、査読編集作業をそれこそ返信用封筒の切手貼りから全て一人でこなしていた頃を思い出します。その経験からも、日々の努力を無駄にするような拙速な行動は取りません。いつも学生から新しいもの好きと揶揄されていますので、これには自戒がこめられています。

しかし、長期的な戦略立案のイニシアティブをとるのは、委員長の仕事であると自覚しております。学会誌の発行頻度はこのままでいいのか、英文誌をどのように発展させていくのか、廃棄物学会の特徴を体現している市民編集号C＆Gをどう展開するのか、編集体制を本部事務局との関係で将来どう考えるべきか。廃棄物学会の基幹業務の一つであります学会誌編集を、会員の皆様と一緒に考えていきたいと存じます。どうぞ宜しくご支援のほどお願いいたします。

第７期　総務委員会

委員長	藤本	忠生（㈱クボタ）
幹　事	浦	満彦（鹿島建設㈱）
〃	片柳	健一（㈱環境管理センター）
〃	中田	清志（(財)日本環境衛生センター）
委　員	石渡	和夫（川崎市）
〃	加藤	秀平（(財)日本産業廃棄物処理振興センター）
〃	金子	栄廣（山梨大学）
〃	河端	博昭（㈱神戸製鋼所）
〃	貴田	晶子（(独)国立環境研究所）
〃	小泉	明（東京都立大学）
〃	小林正自郎	（東京都）
〃	小林	康彦（(財)日本環境衛生センター）
〃	酒井	伸一（(独)国立環境研究所）
〃	中村	立雄（㈱荏原製作所）
〃	西川	光善（㈱環境技研コンサルタント）
〃	福井	博（神奈川県）

第７期　編集委員会

委員長	山本	和夫（東京大学）
委　員	伊藤	秀章（名古屋大学）
〃	植田	和弘（京都大学）
〃	大迫	政浩（(独)国立環境研究所）
〃	奥脇	昭嗣（東北大学）
〃	亀屋	隆志（横浜国立大学）
〃	嘉門	雅史（京都大学）
〃	北脇	秀敏（東洋大学）
〃	酒井	伸一（(独)国立環境研究所）
〃	高見澤一裕	（岐阜大学）
〃	手島	肇（㈱タクマ）
〃	中杉	修身（(独)国立環境研究所）
〃	中村慎一郎	（早稲田大学）
〃	藤江	幸一（豊橋技術科学大学）
〃	眞柄	泰基（北海道大学）
〃	益永	茂樹（横浜国立大学）
〃	森口	祐一（(独)国立環境研究所）
〃	安井	至（東京大学）

年会委員長
澤地　實
（大阪市環境事業局）

年会委員会の最大業務は、言うまでもなく研究発表会の開催です。第 13 回の研究発表会は、既にご案内のとおり 11 月 28 日から 30 日にかけて国立京都国際会館で開かれます。今回の発表論文（401 件）を熟読し、各セッションに割り振り、さらに座長を依頼する等、各委員は頑張り、あとは開催を待つばかりとなりました。

今回の研究発表会ではこれ以外に、実行委員会企画のシンポジウムと見学会、研究委員会研究部会主催の6つの小集会、国際セッション、さらに関西地区連絡会が支部へ脱皮することを記念する講演会とシンポジウム等、盛り沢山の内容になっています。

会員の皆様方には、是非京都での研究発表会にご参加頂き、諸々の研究成果を吟味すると同時にシンポジウムや小集会を覗いて頂けたら、と思っています。年会委員長として、また実行委員として、さらには関西地区連絡会（支部）の幹事として皆様が気持ち良く参加いただけるよう努力して、お越しをお待ちしております。

また近年、春の研究シンポジウムの開催も年会委員会の重要行事になっており、研究発表会終了と同時に準備が始まります。そして来年の研究発表会は、つくばでの開催を予定しております。年会委員会としては、委員各位の総力を結集してこれらの行事がより充実するよう頑張ります。

第７期　年会委員会

委員長	澤地　　實	（大阪市）
幹　事	松藤　敏彦	（北海道大学）
委　員	上島　賢郎	（川崎重工業㈱）
〃	遠藤　茂寿	（(独)産業技術総合研究所）
〃	金子　充良	（㈱荏原製作所）
〃	川口　光雄	（㈱奥村組）
〃	河邊　安男	（(財)日本環境衛生センター）
〃	今田　俊彦	（㈱日水コン）
〃	谷川　　昇	（北海道大学）
〃	水流　純男	（パシフィックコンサルタンツ㈱）
〃	寺園　　淳	（(独)国立環境研究所）
〃	中村愼一郎	（早稲田大学）
〃	長森　正尚	（埼玉県）
〃	宮脇健太郎	（福岡大学）

企画委員長
青山　俊介
（株式会社エックス都市研究所）

高月学会長の下で第７期の企画委員長を務めることになりました。学会設立当初の数年間、企画委員会の幹事を担当したこともあり、馴染みのある職責を務めさせていただくことになったと感じております。

今期は、多くの地方支部が設立され、また、市民会員制度も設けられるなど新たな学会活動の拡がりが期待されます。

企画委員会では、こうした地方活動や市民活動の拡がりと連携し、学会活動の地域への展開に貢献したいと考えております。

また、この 11 月 27 日に幕張メッセ国際会議場で廃棄物学会主催の「わが国素材産業の資源循環産業化の潮流」をテーマにシンポジウムを開催することにしており、昨年から始めた賛助会員向けの特別セミナーの開催や田中副会長、研究委員会との連携による出版事業の拡大など、学会の活性化に繋がる諸活動を精力的に展開することを企画委員一同で確認し、分科会体制を整えております。

もとより、企画委員会の活動は、多くの会員の参画があってはじめてその成果を挙げることができるものです。ぜひ、会員各位のご理解と積極的な参加をお願いする次第であります。

第７期　企画委員会

委員長	青山　俊介	（㈱エックス都市研究所）
幹　事	山本　耕平	（㈱ダイナックス都市環境研究所）
委　員	臼井　直人	（大成建設㈱）
〃	上村　晶子	
〃	川本　克也	（(独)国立環境研究所）
〃	木村　哲雄	（㈱クボタ）
〃	倉田　泰人	（埼玉県）
〃	纐纈　卓也	（日本技術開発㈱）
〃	玉出　善紀	（㈱タクマ）
〃	羽賀　育子	
〃	東山一勇気	（㈱竹中工務店）
〃	三村　正文	（石川島播磨重工業㈱）
〃	柳瀬　龍二	（福岡大学）

研究委員長
松藤　康司
（福岡大学）

第 7 期研究委員会の活動を開始するに当って、委員長としての抱負を述べさせていただきます。前委員長の田中副会長から当委員会を引き継ぐに際して、種々のアドバイスを頂き、これを参考にして 21 世紀にふさわしい委員会活動を活発化したいと思っています。

委員会のメンバー構成は出来るだけ若手の学会員からの参加をお願いしましたし、所属先も官民学から広く参画していただきました。

本年度は、従来の研究助成制度を「研究推進支援事業」に改め、奨励型研究と先導型研究に区分しました。奨励型は若手研究者を対象とし、研究活動のみならず、国際学会への参加も可能な助成制度にしました。また、先導型は本年度はテーマのみの公募とし、創造的で学際的な研究を目指す方針です。一方、従来からの研究部会活動は、活動の活発化を促すと同時に、内部、外部評価制度を導入し、名実ともに実のある活動スタイルを支援する方針です。幸い、休眠中であった部会も活動し始めています。更に、研究者間の意見交換会も開催して活動の課題克服や研究テーマの方向性の是正・情報交換も行う予定です。そして、部会の活動成果発表の場として、年会時の小集会や春のシンポも更に活用したいと思っております。以上これまで継続的に実施してきた研究委員会の取り組みの質的な充実を図るため、若手のエネルギーが十分発揮出来る委員会を期待している所です。この他、田中副会長・企画委員会と連携して、出版物の発刊計画を具体化するため、当委員会にも担当者を置き、年内発刊を目標に企画立案中です。現在停滞しています「日韓共同研究」も、両国のテーマ選定に向けて協議に入る予定です。

若手学会員が大きく羽ばたき、学会活動が一層充実するとともに、支部活動にも当委員会の活動が十分反映できるように、学会員皆様のご支援、御鞭撻を期待しています。

第７期　研究委員会

委員長	松藤　康司	（福岡大学）
幹　事	山川　　肇	（京都府立大学）
委　員	荒井　康裕	（東京都立大学）
〃	占部　武生	（東京都）
〃	大野　文良	（清水建設㈱）
〃	北村　幸夫	（三菱重工業㈱）
〃	鈴木　　均	（(財)日本環境衛生センター）
〃	竹内　　敏	（(財)日本産業廃棄物処理促進振興センター）
〃	峠　　和男	（㈱大林組）
〃	東條　安匡	（北海道大学）
〃	中石　一弘	（㈱イーツーエンジニアリング）
〃	野馬　幸生	（(独)国立環境研究所）
〃	樋口壯太郎	（福岡大学）
〃	三崎　岳郎	（栗田工業㈱）
〃	美濃輪智朗	（(独)産業技術総合研究所）

国際委員長
横田　勇
（静岡県立大学）

前期に引き続き、第7期廃棄物学会国際委員長を拝命致しました。日本の廃棄物問題への取り組みの現状を世界の人々に対し、海外の廃棄物に関する調査研究事例や新技術開発の状況を学会員その他廃棄物問題に関心を持つあらゆる国内外の人々に対し、それについての情報や情報源情報を伝達し、海外の情報に今まで以上の強い関心を惹き起こし、また、世界の廃棄物の研究者、実務者及び政策担当者等の交流の活発化、円滑化を図り、ひいては、相互のより深い文化的背景の理解にまで達することが、この国際委員会に課せられた責務とその外延であります。

一方、現実を省みますと、日・韓廃棄物学会協力協定に基づき春秋交互で開催される研究発表会国際セッションは、テーマが広く焦点が多岐に渡っていること、使用言語が英語のためか日本人の参加者が少ないこと、今年度から電子化された英文ニュースレターに対する海外購読希望者が予想より少ないこと等、改善策を検討すべき問題は多々あります。これらルーチン業務の改善はもとより、新企画を実行し、成果をあげることは簡単ではありませんが、廃棄物問題の難しさと比べたらはるかにやさしい筈ですから、申し上げた事の一つぐらいは、結果を出したいと思います。幸い非常に優秀な委員に囲まれており、必ず出来ると確信しております。

第７期　国際委員会

委員長	横田　　勇	（静岡県立大学）
幹　事	四阿　秀雄	（東京都）
委　員	五十嵐堅治	（八千代エンジニヤリング㈱）
〃	大北　康治	（㈱鴻池組）
〃	尾崎　弘憲	（川崎重工業㈱）
〃	掛田　健二	（日立造船㈱）
〃	斉藤　元明	（横浜市）
〃	坂口喜市郎	（㈱エックス都市研究所）
〃	島岡　隆行	（九州大学）
〃	志村　　享	（国際航業㈱）
〃	杉山　涼子	（㈱杉山・栗原環境事務所）
〃	鈴木　明郎	（石川島播磨重工業㈱）
〃	松本　公男	（環境事業団）
〃	宮川　　隆	（(財)日本環境衛生センター）

平成14年度廃棄物学会賞候補者募集

平成 14 年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたしますので、下記要項に従い、奮って推薦応募されますようお願いいたします。

推薦要項

１．表彰の対象

1)廃棄物学会大賞

廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な功績があった者

2)廃棄物学会功績賞

本会の運営に顕著な功績があった者

3)廃棄物学会有功賞

廃棄物学に係わる技術等の進展に顕著な貢献があったと評価され、画期的な業績をあげた者

4)廃棄物学会論文賞

廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

5)廃棄物学会著作賞

廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者

6)廃棄物学会奨励賞

廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者

２．受賞候補者の資格：廃棄物学会賞受賞候補対象者は、個人又はグループ及び団体とする。個人の場合は原則として本会会員とし、グループ（5名以内）の場合は、グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則として、本会の公益会員及び賛助会員とする。

３．候補の範囲：表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼり、原則として2年以内に功績又は業績をあげた者とする。廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間に制約をおかない。

４．推薦の制約：同一の候補者に対して、同一の推薦者が、2つ以上の各賞の候補として推薦することは認めない。

５．応募の方法：本会正会員の3名の推薦によるものとする。

６．表彰の方法：表彰審査委員会で慎重に審査の上、入賞者には表彰状および記念品を贈呈する。

７．表彰の時期：表彰は平成15年度廃棄物学会定期総会において行う。

８．提出書類：申請には本会の所定様式（廃棄物学会賞推薦書様式）に従って必要事項を記載し、1件につき正1通、副2通（コピーで可）の計3通を提出するものとする。

９．提出締切日：平成14年12月13日（金）必着

10．提出先(送付先)：廃棄物学会事務局　表彰担当

推薦書の請求およびお問い合わせは、廃棄物学会事務局まで

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□　**中国・四国地区連絡会**　■□■□

中国四国地区連絡会後援　　**平成14年6月8日**

「PRTRにおける点源と非点源」に関するセミナー開催報告

「PRTR における点源と非点源に関するセミナー（第15回環境科学会セミナー）」（（社）環境科学会主催、廃棄物学会中国･四国地区連絡会、岡山大学環境管理センター、（社）日本水環境学会中国四国支部後援）が、6月8日（土）に岡山大学津島キャンパス環境理工学部棟にて開催された。

今回のセミナーでは、加瀬野悟氏（岡山大学環境管理センター）による「PRTR 化学物質の大学における管理」、劔持堅志氏（岡山県環境保健センター）による「PRTR 化学物質の環境中での検出」、藤江幸一氏（豊橋技術科学大学、環境省 PRTR 委員会点源担当）による「PRTR 化学物質の点源排出」、岡田光正氏（広島大学、環境省 PRTR 委員会非点源担当）による「PRTR 化学物質の非点源排出」の講演が行われた。

平成11年に化学物質の環境への排出量を把握することを目的とした「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び環境の改善の促進に関する法律」（PRTR 法）が制度化され、平成13年4月から対象事業者は PRTR 化学物質を把握する必要が生じていることに加えて、各講師の方々が、環境省や大学等において具体的にガイドラインやマニュアルの作成に携わった方々であったこともあり、参加者の関心も高く各講演に対して熱心な質疑応答が行なわれた。

加瀬野悟氏が大学における PRTR 化学物質の管理の取り組み状況、課題等の説明を行った。次に、劔持堅志氏が PRTR 関連化学物質の分析手法に関する内容の説明を行った。最後に、藤江幸一氏および岡田光正氏が PRTR 法の実施にむけて政府の方針、PRTR 化学物質の集計手法、状況の説明を行った。

当日は、好天にも恵まれ、また PRTR 法の実施に向けた関心の高まりから、会場がほぼ満席状態となる 100 名程度の参加者があり盛況であった。

（中国･四国地区連絡会　宗村　邦嗣　記）

【お知らせ】

廃棄物埋立処理処分研究部会
会員(平成 14～16 年度)募集

「循環型社会における埋立処分の姿」を研究テーマに、新たに会員募集を行います（13 年度までの会員も再登録して下さい）ので参加希望の方はご応募下さい。申込期限は 10 月末とします。

１）申し込み方法

氏名、勤務先があるときには勤務先、郵送先、E-mail または FAX（できるだけ E-mail を書いて下さい）。さらに、本研究テーマについて提案・意見などを 400 字程度にまとめ送ることが条件です。既往の論文、レポート等があるとき（字数は問いません）にはそれを送って下さい。

２）申し込み先

〒060-8628　札幌市北区北 13 西 8
北海道大学大学院工学研究科廃棄物処分研究室
田中信壽
FAX：011-706-6828
E-mail:nobutosh@eng.hokudai.ac.jp

○廃棄物学会協賛

(社)日本エネルギー協会 3 部会合同シンポジウム
－廃棄物、バイオマス、石炭等利用技術の動向－

開催日時：平成 14 年 10 月 23 日（水）10:00～17:15
開催場所：全国家電会館（東京都文京区）
参 加 費：8,000 円
問合せ先：(社）日本エネルギー協会
TEL：03-3834-6456

＝廃棄物学会会員名簿 第７号が発行されます＝

会員名簿第 7 号を学会誌第 13 巻第 5 号に同封し、皆様のお手元にお届けいたします。登録内容に変更のある方は、事務局までご連絡願います。（平成 14 年 6 月 28 日以降にご連絡頂いた変更内容は今回の名簿には反映されていない可能性があります。）

会 員 状 況	H14.8.31 現在 （ ）内は、H14.4.1 以降の増減
正 会 員	3,618（151）
学生会員	290（ 52）
外国人会員（DM）	21（ 2）
公益会員	114（ 2）
賛助会員	209（ -1）
計	4,252（206）

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第４条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.70　　平成14年9月20日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率 100%再生紙を使用しています

＝ 第 13 回廃棄物学会研究発表会 ＝

第13回廃棄物学会研究発表会（平成14年11月28日～30日：国立京都国際会館）の開催案内を本ニュースに同封いたしました。

登壇される方は、プログラムと併せて、発表ガイドライン（参加案内 p24）の確認をお願いいたします。なお、優秀プレゼンテーション賞は当初の目的が達成されたとの理由から廃止することとなりましたので、ご了承願います。

論文集事前送付を希望される方は、参加案内　p１を参照の上、同封の「論文集事前送付申込書」をご利用ください。(論文集の事前送付を希望されない方は、当日受付をお願いいたします。)

参加案内は廃棄物学会ＨＰ（下記アドレス参照）でもご覧いただけます。

九州大学大学院工学研究院環境都市部門教官募集

募集人員：助教授　１名
専門分野：環境システム学に関する工学
（特に，資源循環および廃棄物処理分野）
採用予定日：平成 15 年 4 月 1 日
応募締切：平成 14 年 10 月 28 日（月）必着
問合せ先：九州大学大学院工学研究院附属
環境システム科学研究センター　島岡 隆行
TEL:092-642-4090、FAX:092-642-3848
E-mail:shimaoka@ies.kyushu-u.ac.jp

☆☆事務局だより☆☆

今年も暑い夏でした。8 月に気象庁から、日本の大都市の年間平均気温がこの 100 年間に 2.5 度も上昇し、東京では、地球全体の温暖化よりも 3 倍以上も速い 3 度も上がったと発表されました。同時期に、5 年ぶりに「エルニーニョ現象」の発生が発表され、ヨーロッパや中国で洪水が報道されました。環境が少しずつ変化し、特に、気象は私達の生活に深く関わり、大きな影響を与えることから、今後とも廃棄物問題と併せて関心を持ち続けたいものです。廃棄物関係では、来年の法改正に向けて廃棄物の定義などが検討されており、この 10 月には、廃棄物処理の制度面の検討がされ報告書がまとまる予定であり、法改正の動きがみえるかと思います。私事になりますが、平成 9 年から約 5 年間主として学会ニュースの編集に携わりましたが、この度交替することになり大変御世話になりました。学会の年間の活動状況がよく分かり、学会活動の重要性を痛感しました。今後とも会員皆様の積極的なご参加、ご協力をお願いいたします。

(竹内　敏　記)